

常に子どもたちとのつながりを求めて

ある時、子育てクラブのパパさんから、太く長い竹が欲しいという話が持ち込まれた。子どもたちと一緒に流しソーメンをやりたいので、その流しにする材料の竹が欲しいというのである。もちろん大歓迎である。森へ来てもらって、一緒に伐り出す。これだけでは終わらせない。一緒に、真竹もたくさん伐り出す。そして流しソーメンの当日。前半は、この真竹を使って竹細工教室を行う。ノコギリやナイフを使って、食器やハシを自分で作るのである。もちろん小さな子どもたちだ。簡単ではない。パパが子どもの手を握ってノコギリの使い方を教えながら……である。今時、パパが子どもの手を一緒に握ってノコギリを使わせる……そんな景色が見られるなんて感激である。パパ自身がノコギリの使い方が分からないなんてこともある。そういう時はわれわれボランティアの出番。われわれがパパにノコギリの使い方を指導するのである。こうして作られた竹の流し、食器、ハシを使って、パパ、ママ、子どもたち、そしてボランティアと一緒に流しソーメンを食べる。これほど、おいしいものはないと言っていいだろう。これも、もう何年続いているかな～。もちろん1か所だけではない。流しソーメンをやりたいという話があると、この実例を参考にあっちこちに生かしてもらおうのである。

松戸のボランティアは、森での作業だけでなく、こうした子どもたちを巻き込んだ展開を常に追求してきた。その例としてSTG (SaveTheGreen) @秋山が挙げられるだろう。ボランティアの多くは定年後の男性か子育てを終えた女性が多く、その平均年齢はきわめて高いと言わざるを得ない。今から9年前、秋山の森で我々が作業していると、近所にお住まいだという若いご夫妻が現れて、「何かお手伝いできることはありませんか？」という申し出をもらったのである。もちろん、大歓迎で、これほど嬉しいことはない。しかし、単に我々の仲間になってもらうだけではあまりにももったいない。そこで、「われわれとは別チームを作って、若いご夫婦だからこそできる何かをやって欲しい。われわれはそれを支援する」という答えをしたのであった。そして、STG (SaveTheGreen) @秋山というチームができたのである。そのころ、ご夫婦にはお子さんもまだいなかったが、そのあと、御出産。「子どもたちを森の中でいかに楽しませるか」「ママも一緒に楽しむ」「楽しませてくれた森への恩返しとして、森の整備も手伝う」ということを掲げて、今までずっと活動を続けてきている。焼き芋を焼いたり、ピザを焼いたり…など食べることが中心。もちろん、森の整備と言っても、小さな子どもたちだから大したことができるわけがない。しかし、その気持ちが嬉しいではないか。そして、この子どもたちが大きくなった後のことを考えるとワクワクしてくるのである。

もちろん、私はSTGの活動日には必ず参加している。しかし、何も指図はしない。黙って見守り、必要だと思われることをそっと支援する。アッ！ そっと支援するだけと書いたが実は、このSTGの中でちゃんと認められた私の出番がある。それは紙芝居である。「森の紙芝居」と称して、自然や昔話を題材にした紙芝居を子どもやママたちの前でいつも口演している。子どもたちが喜んでくれて、私の老後の生きがいの一つと言ってもいいだろう。

自然の観察、森の作業の中から、どう子どもたちとのつながりを作っていくのか……むづかしい課題ではあるがこれほど楽しいことはない。

(松戸市 高木喜久雄)



ホタルを通じて自然保護活動

私は、今年も幻想的なホタルの光を満喫できたことを心から感謝しています。ところで、四街道自然同好会は市川清忠さんが平成元年4月に創設されました。当時は市内15ヶ所でヘイケボタルが生息していたそうです。大規模住宅地開発、道路網整備、湧き水減少、休耕田増加、農薬散布、虫持帰りなどが原因なのか、6ヶ所で絶滅。危機を感じた市川さんは、平成5年、地主さん、市役所と交渉し、600坪の休耕田を1㎡、年間15円で市が借りて保護地区が実現しました。

平成6年から春と秋、自生地の草刈り、ゴミ拾い、保護看板設置などを多くの会員と開始。また、同年、生息調査を会員に呼び掛け、ひと夏2回実施をスタート。

平成10年、和良比小学校で自然観察授業を開始。当会だけでは指導員不足なので、「千葉県自然観察指導員協議会」から優秀な指導員10数名が駆けつけてくれました。現在では当会の観察指導員が20名を超え、5小学校、2保育園で年間延べ40回以上実施。自生地の手入れも4ヶ所に増え、生息調査は45人体制、9ヶ所で27年間継続中です。



ホタル生息調査報告書や会報誌「しぜん」を市役所、公民館、学校等に届け、啓蒙活動を継続しています。これらの地道な努力の成果が表れて来たことを嬉しく感じています。

例えば、①大雨で自生地に土砂崩れが起きた時、市役所環境政策課から、カワナ救出を手伝います、と電話あり。②春と秋の自生地手入れに、休日なのに市役所から数人が毎回来てくれるようになりました。③電力会社から、自生地の鉄塔塗替えの時、ホタル保護に何か留意する事がありますか、と連絡が来ます。④自生地の自治会の環境美化委員10数名が春と秋に草刈り機で自生地を除草。



⑤自然観察会や学校の授業などでホタル、トンボ、セミなどの命のはかなさ、大切さ、自然保護が人類を護ることに繋がる事を伝えて来た成果なのか、ホタルを自宅に持帰る人が激減。⑥市内には当会以外に、メダカの会・植生調査の会・みどりの会・月見の里づくりの会・フォレスト・プレーパークどんぐりの森・自主保育の会・四街道こどもネットワーク・食と緑の会・おいしい水を守る会など自然保護団体が多数活動。

⑦市川さんは95歳を超えられ、お元気です。因みに、私は平成12年入会、その後、事務局長・代表を13年間勤めました。平成20年、市内161公園の樹木の名札を地元の子供達と描き、一緒に付ける活動を始め、44公園が終了し、継続中です。現在は松川裕さんが代表で、上記の活動以外にも、動植物調査・保護活動なども積極的に推進しています。

市川さんの自然保護の情熱を引き継いだ多くの会員が生息調査、自生地手入れ、公園の樹木の名札付け、学校支援授業などを楽しみながら実践しています。これらの文化を大切に継続したいと思います。



(四街道市 小沢 武)

未来につながる松戸の夜の観察会

市内の公園で毎年8月10日前後、夜の6時から観察会が行われています。今年は残念なことに中止になりましたが、町会が買い出しから観察会の設営まで担当しています。

カブトムシをお土産としてプレゼントするので、子どもたちをひきつけているのかもしれないと当初は思いましたが、身の回りの物を題材にしたり、わかりやすく話が進むので。子どもだけでなく大人も引き込まれていきます。

スライドで見せるのは、公園で見られるバッタ、トンボ、チョウ、甲虫についてクイズを交えながら紹介し、「人の役に立っている」クイズでは、フクロウの羽根と新幹線のパンタグラフのような、人の役に立つバイオミメティクスのお話、そしてトビムシとヒムカデの標本を顕微鏡で観察と飽きさせない工夫がちりばめられています。

昨年は子どもたちに半径50センチの円形ループを持たせ、円の範囲にセミの抜け穴がいくつあるか、たくさん見つけようと競争させました。

プログラムの最後は、子どもたちが公園いっぱい広がって、セミの羽化を観察する。その日の公園の状態で勝負する、この日のための準備はままたらないものと想像できますが、参加した子どもたち、大人も満足させる催しでした。

講師役の二人は、昆虫に寄生する寄生原虫感染症の研究者。南米や東南アジアを対象に研究を続けています。町内に住む人で、もう一人は研究者仲間。スライドの説明で寄生原虫感染症のことにも触れ、海外での活動の様子を紹介しました。東南アジアや南米で寄生原虫感染症に苦しむ人の生活改善なども仕事の中にあるそうです。

私を感じたのは、世界には私たちの知らない感染症があり、治療薬もなく戦っている人たちがいるということ。ちらりと新型コロナウイルス感染症のことが脳裏をかすめました。(松戸市 藤田 隆)



里山の咲く花

ヤマジノホトトギス<山路の杜鵑草>ユリ科

8月より9月にかけて咲くユリ科ホトトギス属の多年草です。他のホトトギスに比べて、清楚で名前のおり如何にも山路に咲いているのが相応しいような花とえます。R2. 8. 9 市原市風呂の前で。

(袖ヶ浦市 赤松義雄)



北の国だより

北海道の佐野です。

千葉ではまだまだ活動自粛が続いているかとは思いますが、北海道では、6月中旬頃から、徐々に自然観察会を再開しています。私も、北海道自然観察協議会主催の自然観察会にお邪魔させていただいています。やはり、小さな子どもたちが夢中になって、生き物とふれあっている姿を見ると、自然体験の大切さを改めて感じますね。

ある日 森のなか くまさんに であった♪ (7/1)

世界自然遺産に登録されている知床に行ってきました。原生自然環境保全地域、国立公園、森林生態系保護地域等、2重3重に各法令の指定を受けている、日本でも最も原始的な姿を残す自然のひとつです。

そんな自然豊かな知床の林道を走っていると、草陰からのっそりのっそりとくまさんが出てきました。知床には半日滞在したのですが、のべ13頭のヒグマに遭遇しました w(° o°)w

注) 車中から写した写真です。不必要に刺激しなければ、ヒグマが襲ってくることはありません。



岩の中に眠る巨大な菊の化石 (7/5)

札幌市の隣小樽市の忍路（おしよろ）湾で、北海道自然観察協議会主催の自然観察会。

新型コロナの影響で外出自粛が続いていたので、参加者の皆さんの表情も晴れやかでした。

皆さんが熱心に眺めているのは、岸壁に残る菊の化石です。10メートルはあるかな Σ(°□°)ノ

実は、約1,000万年前に噴火した海底火山から噴出した溶岩が急激に冷やされて固まった枕状溶岩というので、地元では、菊岩石と呼んでいるそうです(^O^)



自然観察指導員が中心となって地域住民で守る防風林 (7/11)

札幌市の隣石狩市の市街地に残る防風林です。幅約70メートル、長さ約2キロメートルの防風林がグリーンベルトとして、住民の生活を守るとともに憩いの場となっています。この防風林は石狩市在住の自然観察指導員が中心となって守っており、定期的な観察会、隣接する小学校への出前授業、希少植物調査等を通して防風林の大切さを伝える活動をしています。

さて、石狩市には、縄文海進の頃の海岸線の名残が残っており、1~2メートルの盛り上がり(砂堤列)が、この防風林の中でも見ることが出来ます。



ブナは暑がりか寒がり？（7/14）

道南の長万部岳（標高 973m）です。長万部岳は、ブナの北限地である黒松内低地よりも南西に位置しており、まとまったブナ林が残っています。少なくとも標高 750m までは確認できました。

私の住む札幌市では、千葉でも普通に生えているクリやコナラも寒い土地のイメージのあるミズナラも自生しているのに、なぜか、ブナは自生していません。北海道七不思議のひとつですね w(° o °)w

千葉も含めて主なブナ科落葉樹の分布を整理すると、以下のようになります。やはり不思議だ。

千葉：コナラ、クリ

黒松内：コナラ、クリ、ブナ、ミズナラ

札幌：コナラ、クリ、ミズナラ

知床：ミズナラ



子ども思いっきり遊べる川をいつまでも（7/18）

北海道自然観察協議会主催の親子を対象とした観察会。札幌市内を流れる星置（ほしおき）川でいきものさがしをしました\(^_^)/

7月とはいえ、ここは北海道。水の中に足を入れるとぞくっとする冷たさ。最初はびっくりしていた子どもたちもすぐに慣れ、すばしっこい魚を追いかけて回っていました。子どもたちの活躍により、ヤマベやハナカシカ、シマウキゴリなど、40匹も捕まえることができました w(° o °)w

これからも、子どもたちが、川の中でバシャバシャと思いっきり遊べる環境を残したいですね(*^-^*)



北海道にもあった昭和の森

私は、千葉に住んでいたときは、千葉市にある昭和の森の担当で、毎月のように、昭和の森を訪れていました。そして、なんと、札幌市近郊にも昭和の森がありました。

両者を比較してみると、北海道のスケールの大きさを感じますね。

① 千葉の昭和の森

- ・100万都市である千葉市近郊にある自然豊かな公園
- ・面積：100ha（ディズニーランドとディズニーシーを併せた面積）

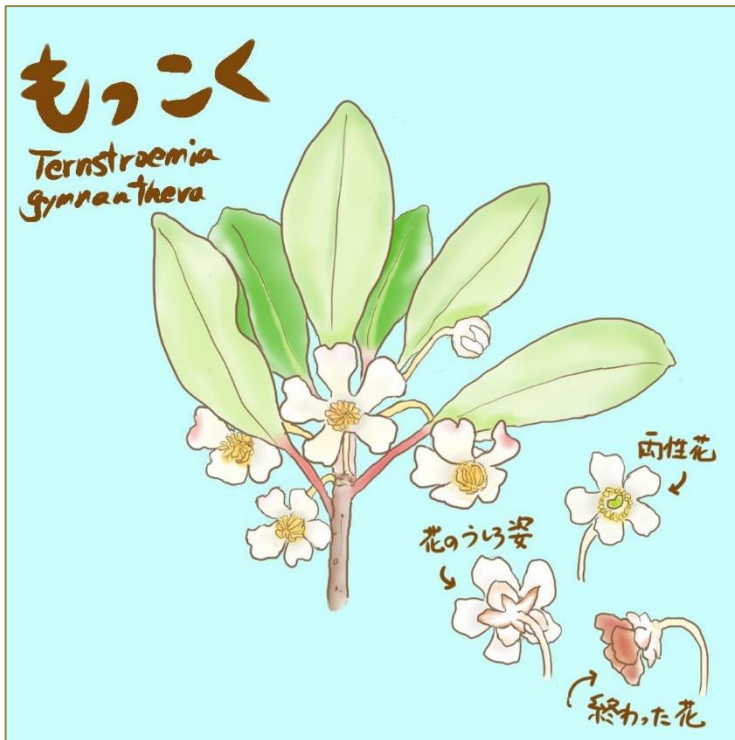
② 北海道の昭和の森

- ・200万都市である札幌市近郊にある自然豊かな公園
- ・面積：2,000ha（ディズニーランドとディズニーシーがある浦安市の1.2倍）



樹木スケッチ ～描いて発見する自然のすばらしさ～

(中田真也子)



<モッコク>

夏になりましたが、やはり花が絶えることなく木の花は咲いています。何かしら満開です。

ですが、夏になるにつれどんどん花が地味になって行く・・・！モッコクの花も近づいてみると綺麗なのですが、下向きに隠れるようにして咲くので、見落としてしまいがちです。これから咲くマサキやカクレミノの花は緑色でよりいっそう地味になります。

なぜ夏は派手な花が少なくなるのでしょうか？他の花が少なく虫が多い時期なので、わざわざ見た目を派手にして遠くの虫を呼ばなくても良いからでしょうか？緑がうっそうとして、少々目立たしても意味がないので、香りなど別の手段を強化して虫を呼ぶ？考え出すと面白いです。

2020年7月11日千葉県美浜区打瀬

<フヨウ>

終戦記念日、散歩で出会ったフヨウの花をスケッチしながら、戦争で亡くなられた方々のことを悼み、祈りつつ、これからの日本をことを考えてしまいました。

昭和10年生まれの母から何度も聞いた太平洋戦争の話。

たまたま母は空襲にも合わず疎開もせず済んだようでしたが、それでも子供心にも一生忘れ得ない恐ろしい体験だったとのこと。10歳で迎えた終戦の日のも母は今もはっきりと覚えているのだそうです。母は、「コロナ禍と戦災を一緒に語るべきではない」とも言います。

私は18年間5人の子供達へ本の読み聞かせをして、戦争を体験された方々の感じられた恐ろしさ、悲しさを読み、子供とともに何度も泣きました。

ところが今年の終戦記念日、TVでは「慰霊碑を守る方が減ってしまっていて維持が難しい」というニュースばかりが報じられていました。何か、もうそれが当然のような報道の論調・・・本当にそれでよいのでしょうか。今年は子供達とも、そんな話をしました。

戦争の経験を私たち日本人は決して忘れてならない。どうか世界の全ての戦争がなくなりますように。心から祈りました。

2020年8月15日千葉県美浜区打瀬

